

令和3年度文京区アカデミー推進協議会
第3回分野別分科会（観光、国内・国際交流分野） 概要記録

日時 令和3年7月21日（水）書面開催

委員 山田徹雄委員◎、小能大介委員、関誠委員、内藤雅義委員、佃吉一委員、杉田明治委員、清水恵一委員、彼島巽委員、堀正孝委員、小島えりか委員（◎座長）

幹事 高橋征博アカデミー推進部長、堀越厚志アカデミー推進部観光・都市交流担当課長

資料 資料1 観光分野の現状と課題及び施策体系
資料2 国内・国際交流分野の現状と課題及び施策体系
資料3 意見等記入様式（観光）
資料4 意見等記入様式（国内・国際交流）

議題

- (1) 観光分野の施策体系（案）について
- (2) 国内・国際交流分野の施策体系（案）について

以下、書面会議のため項目ごとにご意見を列記する。

- (1) 観光分野の施策体系（案）について
 - I. 区内まるごと回遊の促進

ご意見
<基本方針> ○なし
<施策> ○基本方針に「区民や来訪者、外国人等の様々な視点や他分野との連携等による新たな切り口から、独自の観光資源を創出し」という表現がある一方で、施策にはそのアイデアが生かされていないような印象を受けました。「観光資源の磨き上げと新たな魅力の創出」を、区だけでなく様々な立場の意見をもとに行う、という点を強調すべきだと考えます。

- II. いつでも・どこでも。世界をつなぐ観光情報・魅力の発信

ご意見
<基本方針> ○自治体からの情報発信とともに、来訪者や区民自身が区の観光資源について SNS 等で

ご意見
自ら発信してくれるような効果を期待することもできるのではないのでしょうか。
<p><施策></p> <p>○自治体自身が区の観光資源について SNS やインターネットでどのような関心を集めているのか把握し、それに応じて情報発信の方法を考えることも効果的であると考えます。</p>

Ⅲ. つながりから生まれる観光の推進

ご意見
<p><基本方針></p> <p>○他分野 → 他分野（文化・芸術、スポーツ等） に書き換え、施策の書き方と合わせた方が読みやすいと感じました。</p>
<p><施策></p> <p>○施策の中に「融合」「連携」と併せて「協力」という文言を加えることも、基本方針のニュアンスを施策に生かすうえで効果的だと考えます。</p>

Ⅳ. 何度でも訪れたいくなるおもてなしの環境整備

ご意見
<p><基本方針></p> <p>○「環境整備」の内容をさらに具体化させ、例えば「バリアフリー」や「多言語対応」などといった文言を加える必要があると考えます。</p>
<p><施策></p> <p>○なし</p>

その他

ご意見
<p>○現状と課題</p> <p>① 4行目</p> <p>リアルとデジタル</p> <p>→リアルの対語は、ヴァーチャル</p> <p>またデジタルの対語は、アナログ</p> <p>この箇所は、「リアルとヴァーチャル」と訂正することを勧めます。</p> <p>○文京区に在住の外国人、留学生等から文京区の観光魅力の意見を聞く機会があるといいですね。</p>

ご意見

○それぞれの項目についてわかりやすくまとめられていると思います。

(2) 国内・国際交流分野の施策体系（案）について

I. 国内交流自治体との交流促進と相互発展

ご意見

<基本方針>

○なし

<施策>

○国内交流自治体に関しては、調査の結果区民から十分に認知されているとは言えない現状があり、「魅力向上」「PRの充実」の目的として「認知度向上」も施策に加えるべきかと存じます。

II. 国際理解を育み定着に向けた機会づくり

ご意見

<基本方針>

○現状と課題の項にあった、体験から継続までを見据えた連続性の重視という表現をここでも再び使用すべきだと考えます。「きっかけを作るだけでなく」という表現のみでは、現状と課題で指摘された点が十分に伝わらないのではないのでしょうか。

<施策>

○なし

III. 外国人が活躍できる環境づくり

ご意見

<基本方針>

○「活躍できる」環境を整備することももちろん重要であり、また今回の調査の結果新たに見出された点であると考えますが、前回の計画にあった「外国人の生活・滞在に対する支援」についても再び言及すべきではないのでしょうか。

<施策>

○なし

その他

ご意見

○現状と課題

ご意見

⑥ 1 行目

韓国語

→ 朝鮮半島で使われる言語表記については「韓国語」と「朝鮮語」の表記をめぐって、大きな論争がある。

NHK で語学講座を設置する際に、在日本朝鮮人総聯合会（朝鮮総聯）が「朝鮮語」、在日本大韓民国民団（民団）が「韓国語」を主張した結果、『アンニョンハシムニカ ～ハングル講座～』という名前が用いられることになった。

大学入試センターでの「朝鮮語」呼称に対しても、在日本大韓民国民団（民団）から抗議がなされた。

また、北京大学の朝鮮語学科は、朝鮮（韓国）言語文化学科に改称された歴史がある。

公の文書であることを考えると「朝鮮・韓国語」、「韓国・朝鮮語」などと表記すれば、問題が生じないと思うがいかがであろうか？

○多文化共生時代ですので、文京区の公営住宅にも留学生を住めるようにして、日本人や日本人学生と日常的に触れ合う機会を造り、お互いを理解するミニ共同村を作り、留学生が街の行事や文京区の国際交流行事に参加することを義務として、安価な宿舎を提供し、文京区と日本語学校と留学生、日本人・日本人学生との交流の促進を具体的に生活の中で実現できれば、と思います。相互に助け合う多文化共生村づくりの実験を。

○こちらの資料もこれまでの議論がわかりやすくまとめられており、着実に施策を実行すれば大きく伸びる内容だと感じました。多言語化による情報発信ならびに、在住在学外国人からの積極的な情報発信ができれば、世界中瞬く間に情報が渡るのでないかと期待しております。

以上